

外部専門家活用研修事業

本校の外部専門家活用は、平成20年度より、文部科学省委託事業・長崎県教育委員会指定「外部専門家活用指導充実実践研究事業」により2年間の実践研究に取り組み始め、それ以後「外部専門家活用研修事業」「特別支援教育地域支援事業（外部専門家活用）」等、事業名こそ変わってはいるが、外部専門家を活用し始めて8年目になります。

外部専門家活用事業（特別支援教育地域支援事業）の趣旨

特別支援教育地域支援事業の一環として外部専門家を活用し、特別支援学校において、医学的、心理学的などの専門的視点から指導の充実を図るため、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）等の外部専門家を活用した指導方法の改善に取り組み、特別支援学校のセンター的機能の強化を図る。

本校の目的

- 自立活動の指導における、目標設定や指導内容・方法の根拠を明らかにし、説明責任を果たすことができる。
- 教師が指導実践を振り返り、外部専門家の助言を教育的な視点で整理し、授業改善に役立てることができる。

活用の具体的実施方法 ※1回分の流れを以下記載。これを2回繰り返す。

①自立活動の指導を中心として、**児童生徒の実態把握**や**目標、指導方法**等の妥当性、**評価**等について、我々が問題と感じていることに対して、外部専門家に直接児童生徒の指導の様子を見ていただき指導・助言を受ける。（1時間当たり1～2名）

②外部専門家より、対象とする児童生徒一人当たりに対して**年間2回指導・助言を受けることを基本**とし、児童生徒の変容をお互いに確認し共通理解できるようにする。

③外部専門家からの指導・助言は、他職種である専門家の立場から見たものであることを踏まえ、実際に**学校の中で教員としての我々が指導を行っていく際にはどのように行っていくべきか整理**をした上で指導方法や手だてを修正していく。

④外部専門家とのやりとりを行う際のツールとして、**パワーアップシート**を活用する。
〈図1 パワーアップシート枠参照〉

⑤外部専門家の指導・助言を受ける際には、**自立活動部や各部主事などが同行**することで、受け手側の教員の**一面的な解釈にならないようにすること**や、両者の関わりをより円滑にする役目を果たす。

⑥個別の指導・助言を記録する方法としては、必要に応じて**ビデオを活用**するなどする。

実施結果

平成27年度の来校指導では、児童生徒59名に対して外部専門家から指導・助言をいただき、指導改善につなげることができています。また、夏季休業中にPT・OT・STの合同研修会と摂食指導研修会を行っています。

外部専門家とのやりとりのツールとして活用したパワーアップシートには、「姿勢をとらせるときに、その姿勢は何のためにとるのか、目的に応じた姿勢を考えるようになった」「子どもたちに答えを教えるのではなく、探させることが一番大切であるということを知ることができた」「現在の指導を少し工夫するだけで、他の学びにつながるということが分かった」という旨の記述があり、新たな学びや気づきがありました。また、根拠をもって指導を工夫していくことで、教師の自信にもつながっています。

外部専門家の先生方からは、「パワーアップシートでやりとりを確認することで、自分の取組の見直しや学びにもつなげることができた」「専門家として、学ぶことが多い機会を与えていただけて感謝している」「このような学ぶことの多い機会に携わる人材（専門家）をもっと増やしていきたい」という話を聞く



写真1: 手指機能の向上に向けて、ボタンの掛けはずしを通しての指導のアドバイスを受けている場面



写真2: 下肢のストレッチの方法を、理学療法士と一緒に実際に行いながら、助言をいただいている場面

ことができ、この外部専門家活用事業では、教師の力を高めるだけでなく、専門家の先生方の力を高める良い機会ともなっているようです。

夏季休業中の研修会においては、事例ごとにグループ協議を行い、その後外部専門家のそれぞれの視点で指導助言をいただき、来校指導で個々の教師が得た学びに加えて、一人の児童生徒を広い視野で見るときの視点等を参加者全員で共有することができました。外部専門家とのやりとりで学んだことは、本校の児童生徒だけでなく、近隣の小中学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒にも大いに生かせることです。また、学校だけでなく、家庭やデイサービス等との連携を深め、一緒に児童生徒の力を伸ばしていけるように働きかけていくことも大切なことです。今後、本事業を活用しながら、さらに学校全体の専門性を高めていきたいと考えています。併せて、外部専門家を活用した研修会などを地域に発信し、学びの機会を設けていくことも継続して行っていきたいと考えています。



写真3:立位姿勢の中で、自分で姿勢を保つために、足をつく位置や下肢や腰の使い方について、理学療法士に助言を受けている場面。

学年	児童生徒氏名	主担当氏名	担当専門家名	助言年月日	平成	年	月	日
関連する年間目標	①							
学習内容	②							
問題に感じていること(日付)	行っている方法や手だて(日付)	専門家からの助言(日付)	助言を受けてどう整理したか	修正した方法や手だて(日付)	児童生徒の様子や変容	教師の変容		
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		

図1:パワーアップシート枠

パワーアップシートをもとにした外部専門家活用の流れ



